

祝 平成29年 下関市消防出初式



謹賀新年

年頭のぞあいさつ



下関市防災協会
会長 矢佐竹春



新年明けましておめでとうございます。

新春を迎え会員の皆様方に謹んで新春のお慶びを申し上げます。平素は当協会の運営に際し、下関市消防局並びに会員の皆様にご多なご指導、ご支援を賜りましたことに対し心から感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、下関市におきましては特筆する災害は発生しておりませんが、四月に熊本県熊本地方で震度7を記録した「平成28年熊本地震」が発生し、多くの尊い命と貴重な財産が奪われ、いまだ復興道半ばにあります。この熊本地震では下関市消防局から緊急消防援助隊が出動したと聞いております。

また、十月には鳥取県中部で震度6弱の地震が発生し、多くの住宅に被害をもたらし、また全国的な台風による被害など自然災害の猛威はとどまるどころがありませんでした。

火災につきましては、十二月には新潟県糸魚川市におきまして、大規模な火災が発生するなど改めて災害への備えや防災意識の重要性を感じさせられ、市民の皆様の安全や企業防災への関心はますます高まっているところであります。

幸い下関市の火災発生件数は74件と昨年の昭和四十七年以来となる最少記録から増加は致しましたが住宅などの建物火災は減少して越年できました。

当協会といたしましても、地域社会・会員事業所並びに行政が一体となって減災、出火防止に取り組まなければならないと考えております。

おわりに本年が災害のない平穏な年でありますとともに、消防ご当局並びに会員事業所の皆様方のますますのご発展とご健勝をお祈り申し上げます、新年のごあいさつといたします。

平成29年 消防出初式挙行



新春を飾る恒例の下関市消防出初式が、さる1月7日(土)、下関市豊前田町三丁目、海峡メッセ下関及び海峡ゆめ広場周辺で挙行されました。

海峡ゆめ広場前の路上で消防職・団員、会員事業所自衛消防隊及び婦人防火クラブ員、幼年・少年消防クラブ員総勢1,162人、消防車両38台による分列行進が行われた後、会場を海峡メッセ下関イベントホールに移して式典等が行われました。

式典では、中尾市長の式辞に続き消防職・団員の永年勤続表彰と平素の防火管理や防火活動に多大な功績のあった方々の表彰が行われました。

式典後は、同場所消防団員による「海峡まとい太鼓」と消防職・団員による「はしご乗り演技」が華やかに披露され、消防出初式が盛況のうちに幕を閉じました。

受賞おめでとうございます

平成29年消防出初式で、次の個人と団体に表彰状が贈られました。
(敬称略)

※一般表彰のみ掲載

下関市長表彰

◎一般表彰

〔個人〕

- 伊崎2町自治会 会長 内納之雄
- 勝山地区自治会連合会 会長 山尾末明
- 西山町自治会 会長 和田博
- 綾羅木地区連合婦人会 会長 壇圭子

〔団体〕

- 黒井地区自治会連合会
- 医療法人社団 千葉クリニック
- グループホーム豊田



防災視察研修に参加して

白島国家石油備蓄基地

大東タンクターミナル(株)六連油槽所

伊藤明勇

平成28年度の防災視察研修が10月25日に行われました。

今年の参加者は、防災協会会員事業所及び事務局を含む24名で、8時30分以下関市消防局からバスに乗り、まずは白島港の船が発着する北九州は若松の安瀬港へ向かいました。この安瀬には白島国家石油備蓄基地(以下白島基地)の展示館があり、白島基地の仕事や役割、設備や機能・安全管理をマルチメディアで学習



できる展示室や映像ホール、3階には北九州から下関、響灘(もちろん白島基地)までを見渡せる360度の展望室が備わっています。

展示館のすぐそばに、白島に渡る渡船場があり、乗船者は事前に必要な情報を登録したIDカードを自動読み取り機にかざしチェックインして乗船します(IDは島に上陸時にも使用、これにより入島者の管理を行っています)。白島行きの船は2隻有り、1隻は車の搭乗可能なフェリーで、毎日これらの船で工事業者を含め200〜300名が、多い日には400名以上の人が白島に渡っています。

船に乗って40分で白島到着。この白島基地は平成8年9月に操業を開始し、面積・陸域約14ha、海域約60haで、560万kl(日本の石油消費量の約10日分)の石油を備蓄する能力を有しています。

島に到着して最初に管理棟に移動、ここで施設の概要と制御室の説明を受け昼食となりました。昼食場所は基地の社員食堂をお借りして弁当を頂いたのですが、社員食堂の安くてボリュームの有るメニューを見て何とも羨ましく思いました。

昼食休憩後、基地内をマイクロバスで移動しながら各施設の説明を受けました。この基地は昼間40名・夜間13名で運営管理されており、備蓄される石油は防波堤(最大防波堤長・1,050m)で囲まれた静穏な泊地内に、貯蔵船(70万kl×8隻、1隻当り・10万kl×7区画、寸法・長さ397m×幅82m×深さ25.4m)に入れられ、貯蔵船は1隻あたり16基の防舷材を介して係船ドルフィン4基により係留されています。貯蔵される石

油は7隻分、1隻は点検を行う為空にし、この点検を5年周期で行っていますが、大きい貯蔵船の為、点検は途切れる事が無いとのこと。

白島で使用している電気や水は全て自前で、発電機は5台(常時1台使用)、水は海水を浄水し使用しています。使用した水は浄化処理され、規準に適合したことを確認後排出されます。また、設備内の雨水は防波堤内に排水されるのですが、防波堤は海底部に隙間は有るものの設備全てを囲っており、比重の関係で水深5m位までが淡水でその下が海水になり、そのおかげで、海水部に光が届かず貝や苔が貯蔵船に附着せず、塗膜の良好な状態を保っているそうです。

この白島から約850m離れた沖合には、最大32万D・W・T級のタンカー船が着出し出来るシーバースが設置されています。毎日2回点検を行っているのですが、風の強い時には片道歩いて30分位掛かるそうです。遠目ではさほど感じられませんが、近くで見るとさすがにその巨大さを感じ、多くの作業員が毎日通ってくるのも納得しました。

基地の見学が終了し、来たルートと同じくIDをかざしながら船にて安瀬港に、そしてバスに乗り、次は北九州市門司麦酒煉瓦館へ向かいました。

門司麦酒煉瓦館は、大正2年(1913)帝國麦酒株式会社として建設され、当時はサクラビールと銘打ったビールを醸造・販売、長い歴史の中で「桜麦酒」「大日本麦酒」「日本麦酒」「サッポロビール」と合併や分割を経て、最終的に平成12年(2000)サッポロビールの日田市移転に伴い、区画整理事業が行われた結果歴史的建造物を未来に

伝えるため4棟の煉瓦造施設に生まれ変わったそうです。大正ロマンあふれる、門司麦酒煉瓦館の見学の後、門司港レトロ地区を散策しました。

最後に、視察研修にご尽力頂いた、事務局をはじめとする関係者の皆様へ厚く御礼申し上げますと共に、各企業の皆様へ感謝申し上げます。

支援車配備

下関市消防局 警防課

下関市消防局警防課に配備している、支援車が更新配備され12月28日から運用を開始しました。

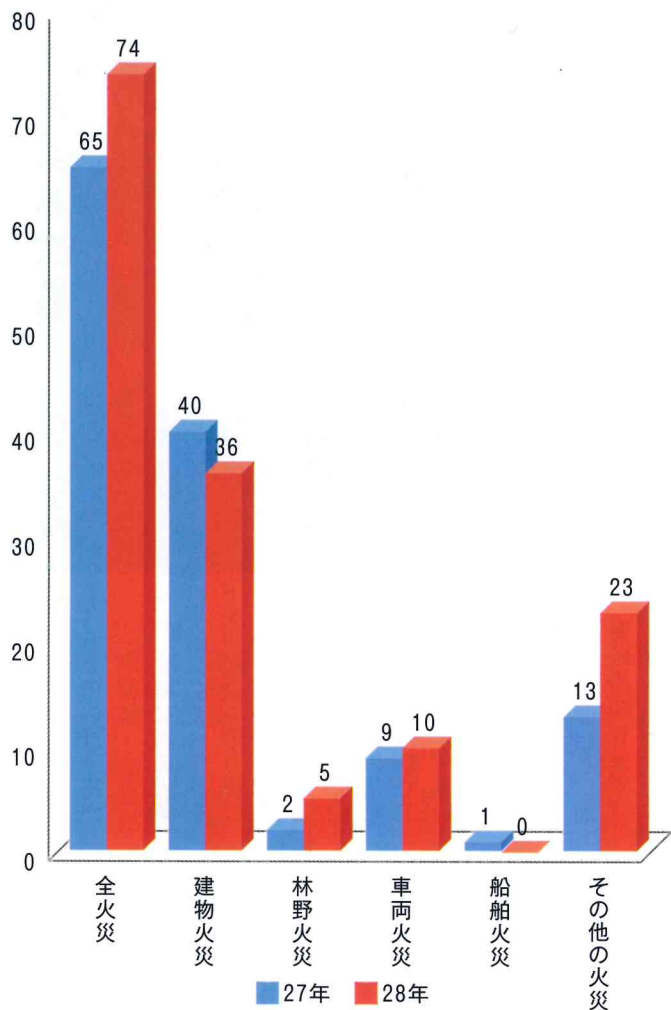
支援車は、緊急消防援助隊の出動時をはじめ、長時間におよぶ災害現場等で消防隊員の後方支援に活用されます。

特徴としては、車体拡張装置が装備されており、最大21名の消防隊員が車内で仮眠することができ、他、シャワーやトイレ等も完備されています。



平成28年下関市火災概要

平成28年中の火災件数は74件で、前年に比べ9件増加しました。



平成28年 下関市火災発生状況

火災件数74件!

平成28年の火災件数は74件で、昭和47年以来の最少記録となった前年に比べて9件の増加となりました。
火災種別では建物火災が36件と全体の49%を占めていますが出火件数は、昨年比比べ4件の減少となりました。

枯草やゴミ等が焼損した。その他の火災が23件と10件の増加となっています。
出火原因では、「たき火」「たばこ」「放火または放火の疑い」がワースト3となっています。

昨年に比べて3人増加しました。
火災の大半は、ちよつとした不注意や油断から起こっていますので、より一層の火災予防に努めましょう。

	全火災	建物火災	林野火災	車両火災	船舶火災	その他の火災
28年	74	36	5	10	0	23
27年	65	40	2	9	1	13
前年比	+ 9	- 4	+ 3	+ 1	- 1	+ 10

事務局

だより

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

協会の運営につきましては、平素から格別のご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本年も協会事務局と消防局が相協力して火災予防を推進し、火災のない明るい地域づくりに努める所存です。

今年も、昨年同様に協会運営について、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

★会費納入のお願い

今年度も残すところわずかとなりました。まだ会費を納入されていない会員事業所におかれましては、早急に納入していただきますようお願い申し上げます。

振込先等につきましては、協会事務局にお問い合わせをお願いいたします。

下関市防災協会

TEL 2333-9114